

1 実施状況

7月に実施。学習資料をワークシートとして用い、児童自身の考えを記入。授業中の「児童の様子」は以下の通り。授業後に家庭に持ち帰り、保護者から応援メッセージ（「保護者の反応」）を書いてもらった。

これを基に、一人一人が学習の最後に、感じたこと、気が付いたことを「振り返り」として書き、ノートを持ち帰り、保護者から読んでもらった。この双方向の連携により、学習内容を家庭と学校が共有し、今後の指導に生かしていこうと考えた。

2 児童の様子

らしさってなあに？

「男らしさ」「女らしさ」ってまだあるの？

※ 次の絵を見て、ふき出しの中のことばを考えてみましょう。



- ・「男らしい、女らしい」という言葉について、実感がわからない様子であった。
- ・「スポーツや趣味」について、女兒が野球部に所属したり、サッカーが上手で活躍したりしていることから、児童に、男女には関係がないという認識が広まっているように感じられる。
- ・「好きな色の服を着ること」について、赤色やピンク色の服を男児が着ていることは日常であり、実際に「似合っているね」などの会話も聞かれる。

新潟市教育委員会 男女平等教育学習資料「らしさってなあに」（中学年向け）p.1

3 保護者の反応

- ・自分の感覚として、共働きで、当たり前にも男女とも平等と思ってきたので、学校でこのような勉強をしていることについて、よい意味で驚いた。将来、社会に出たときに役に立つのかもしれないと感じた。
- ・「男だから、女だから」という感覚は、子どもたちはもっていない気がする。服や持ち物の色も自由だし、子どもはあまり意識していないと思う。社会としては、まだ男女を区別する風潮があるので、このような学習が必要なのだろうと思った。
- ・今まで、「男らしく、女らしく」という言葉や、考え方で子どもに接したことがないので、子どももそのような意識はないのではないかと思う。家の外で差別するようなことがあれば、話していこうと思う。
- ・女の子と遊んだり、一緒に登校したりしている。以前、「女子と仲良しなんだ」とほかのクラスの子に言われて、少しからかわれた気がするといっていたのを思い出した。これから性別を意識する年齢になるので、「自分らしく」ということが大事になると思った。

男女平等教育 令和3年度 女池小学校の取組 第6学年での実践

教科名 等：総合学習

キャリア教育と関連して

学年：第6学年

1 実施状況

7月に実施。学習資料をワークシートとして用い、児童自身の考えを記入。授業中の「児童の様子」は以下の通り。授業後、家庭に持ち帰り、保護者に読んでもらった。

2 児童の様子

- ・学校生活の中で、友達同士で「男らしい」とか「女のくせに」など、男女で差別するような発言をしてしまったり、言われたりしたことがあるという児童はいなかった。
- ・「男のくせにピンク色の服を着ている」などと言う人がいないクラスでよかったという感想があった。
- ・家庭で、「女の子なんだから〇〇しなさい」という言葉を親から言われたことがある児童がいた。
- ・園児のとき、大人から「あなたは男の子なんだから、〇〇ちゃんとは遊ばないんだよ」と言われた経験を覚えていて、みんなに紹介してくれた児童がいた。この事例からも、保護者や祖父母、地域の大人、そして自分たち教職員の意識を変えることが重要であることが分かる。

②「らしさ」ってなんだろう？

下の絵のように、女子は「女らしく」、男子は「男らしく」と言われたことはありませんか。



新潟市教育委員会 男女平等教育学習資料

「自分らしく」(高学年向け) p.2

3 キャリア教育と関連して

本校の6年生は、総合的な学習「輝かせよう！これからの自分」という単元で「夢先生に学ぼう」という活動を行っている。その中で、12月に地域の大人や保護者をゲストティーチャーとして招き、職業について話を聞いた。

- ・児童は、警察官、料理人、司書、保育士など11の職業から、話を聞いてみたいものを3つ選んだ。どの職種も、希望する児童に男女の偏りは見られなかった。
- ・警察官は、男性、女性のお二人で来校いただいた。児童からは、「女の人でも警察官になれるのですか」「女性はどのくらいいますか」などの質問が出た。女性も多いこと、また男女の別なく、それぞれに大事な任務があることをお話しいただいた。



フラワーアレンジメントの仕事について話を聞く児童

- ・保育士の方からは、力仕事が多く、男性がいたらよいと思うが、実際はとても少ないというお話があった。事後の振り返りでは、「男の人の保育士が増えるといいと感じた。自分も保育士という仕事に興味が出た」という記述(男児)が見られた。